



# 大学連携における 自治体・産業界のかかわり、役割分担 ～大学の立場～

金沢大学共通教育機構副機構長  
戦略GP支援企画委員会委員長  
コンソーシアム石川教務学生専門部会長  
古畑 徹

# 報告者自己紹介

- 古畑 徹 1958年生 専門は東洋史学  
1990年 金沢大学教養部助教授として赴任  
1994年教養部組織改革検討委員会委員長として改組に携わる→教養教育機構設置へ  
1996年 文学部助教授 その後教授  
教養教育機構内の研究調査部で、改組後のカリキュラム・教育システムの改訂に従事。途中より、研究調査部長として、FD・授業評価・CAP制・GPA制導入に尽力、さらに共通教育新カリキュラム開発(2006年度開始)に従事(→研究調査部はその後、大学教育開発・支援センターに発展)  
2006年 共通教育機構長(評議員)  
2008年 人間社会学域歴史言語文化学系教授(国際学類専任)、共通教育機構副機構長(大学コンソーシアム石川担当＝教務学生専門部会長)

# 大学コンソーシアム石川について

- **設立趣旨** 石川県は、高等教育機関の集積が高く、人口当たりの学校数は京都に次いで全国第2位、学生数も京都、東京、大阪、福岡に次いで全国第5位です。一方、近年の少子化の進展や国立大学の法人化により、大学間の競争はますます激しくなっています。そのため、平成11年に設立した「**いしかわ大学連携促進協議会**」を発展させ、高等教育機関が主体性を発揮し大学連合体である、「**大学コンソーシアム石川**」を発足させました\*。

\* 平成18年のこと

県内の新たな高等教育機関全体の魅力向上を形成するため、**高等教育機関相互の連携、地域社会や中学校・高等学校等との連携**を深める役割を担い、これらの連携による教育交流、情報発信、調査研究等を行い、高等教育の充実・発展及び地域社会の学術・文化・産業の発展に寄与することを目的とします。特に、本組織設立を契機に、**金沢まちなかキャンパス構想**を掲げ、**金沢市の中心部を共通のキャンパス**としていき、大学が行う活動を拡大させ、**学都としての魅力化**につなげます。また、**大学と地域との連携による地域の活性化**にも、これまで以上に貢献できるよう積極的に取り組むこととします。

- 設立趣旨解説

利点＝高等教育機関の集積

条件＝高等教育機関間の競争激化



連携実績＝「いしかわ大学連携促進協議会」 **シティカレッジ事業**

「大学コンソーシアム石川」発足

大学側の意図：

利点を活かして県内の大学全体の底上げ  
一校では対応が難しい社会のニーズに  
連携することで応えられるように

**地域活性＝町の魅力が人を呼ぶ**

→「集客」・就職や教育・研究の活性化につなげる

# 金沢まちなかキャンパス構想

● いしかわシティカレッジを中核とし、金沢中心部に集積している歴史・文化施設を活用して、各大学等が単位互換及び文化体験型の授業等を実施します。

● 各大学が開催するイベント、学会等を中心部の既存施設の空きスペース、会議室等を活用して行います。

● 現在いしかわシティカレッジの2教室で行っているものを、既存施設の空きスペース、会議室等を活用して徐々に拡大。各大学等が金沢中心部をサテライト・キャンパスとして活用します。



フィールドワーク支援、文化施設利用支援事業  
金沢大学薬学類・創薬科学類1年生前期授業の1日まちなか開講

等

# シティカレッジ単位互換事業

- いしかわシティカレッジは、県内の高等教育機関(大学・短期大学・高等専門学校)が相互に連携・協力して、高等教育の充実と魅力の向上を図るとともに、県民にその機能を提供しながら地域との連携・交流の場となることを目指して設置されました。広坂庁舎(旧石川県庁舎)周辺の新たな賑わいの創出も期待されています。

- 毎年約90科目
- 受講生延べ1000人前後  
(うち社会人200人前後)
- 教室2＋石川四高記念  
文化交流館多目的室4室

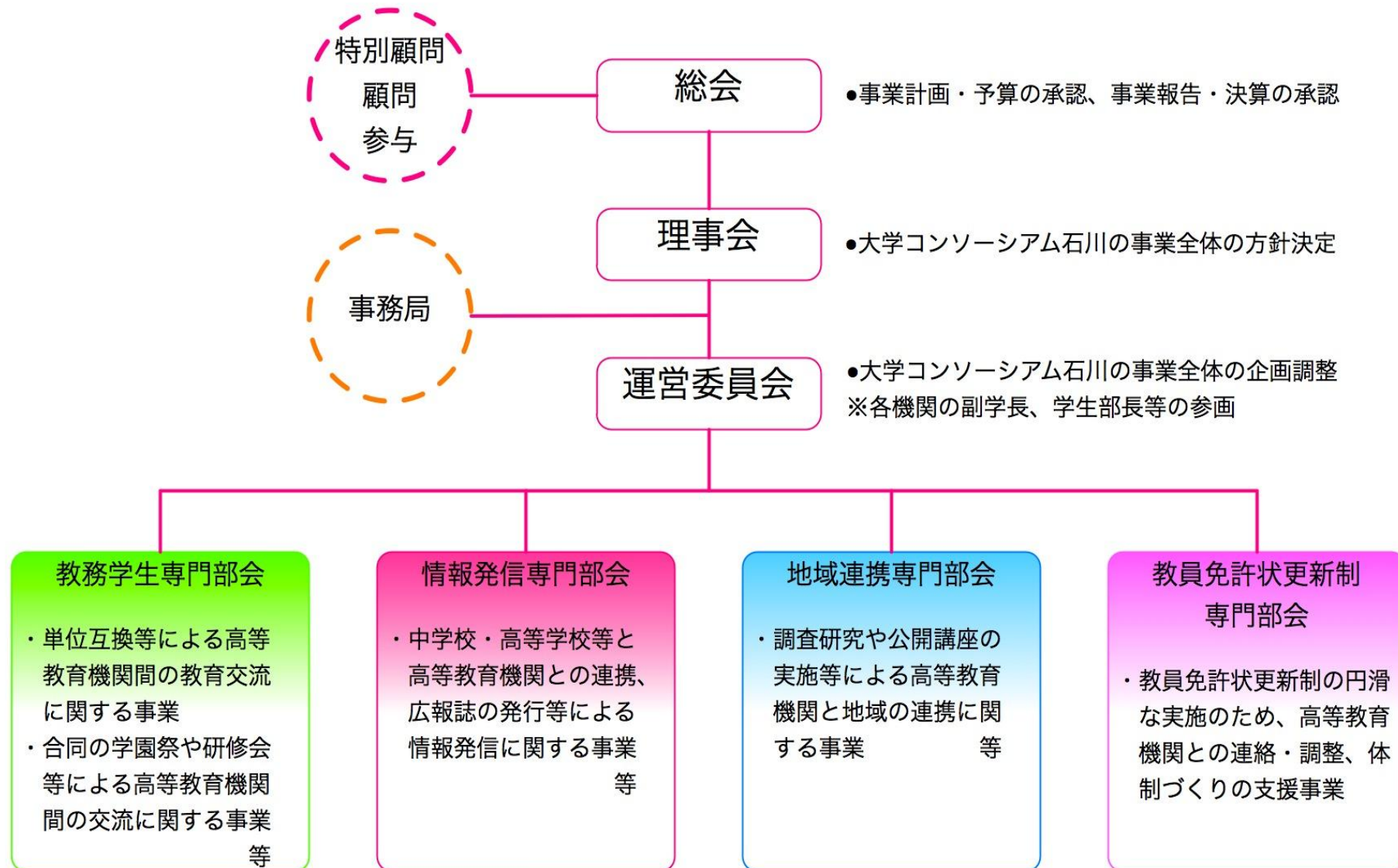
## キャリア形成プログラム事業

ジョブカフェとの連携による

インターンシップ直前講座／プレインターンシップ(集中講義)



# ・ 組織図



- 地域連携専門部会

- 学生・企業まちなかサロン事業

- 学生と地域企業トップが語り合う → キャリア形成へ

- 地域貢献型学生プロジェクト推進事業・地域課題研究ゼミナール支援事業

- 大学ゼミの学生が地域と連携して解決方法を研究

- 教育の活性化、地域貢献

- 公開講座「いしかわ学」

- 情報発信専門部会

- 出張オープンキャンパス事業

- 高校からすると個別大学と一々交渉しなくても複数機関の模擬授業・説明会ができる／大学にとっても対応しやすい

- 石川県高大連携セミナー

- いしかわCGコンテスト事業

# 課題と問題点

- 多くが郊外型キャンパスー遠方の大学では利用がしにくい  
／県民も金沢以外の人には利用しにくい
  - 距離を縮める方法はないか
- 現代GP(H16-18)によって授業のデジタルコンテンツ化・配信が可能
  - しかし、一方通行で、視聴の有無の確認もできない
    - 双方向型のeラーニングへの展開が必要
- 大学の課題の増加ーFDの義務化、ICT化など
  - 小規模大学には負担、**連携によるメリット**がもっと見込めるのではないか
- 企画の学生周知に時間がかかる
  - 各大学を経由せずにダイレクトにアクセスできないか
- 施設の移転／従来設備は単なる教室
  - 新しい教育に対応できる設備にする必要性

戦略GPへの応募＝これらの課題解決へ向けて

# 戦略GP採択事業の概略

- 「大学コンソーシアム石川を中心とした共通の教養教育機関とICT支援体制の構築」(平成20～22年度) 代表校: 金沢大学
- 10年後の共通教養教育機構の創設を見据え、「大学コンソーシアム石川」の活動を飛躍的に強化する。
  - ①「いしかわシティカレッジ」の質的強化
    - ・柱となる授業の充実＝**共同利用コンテンツ**の作成・既存授業の拡充支援 豊かな教養教育／補習教育／ESD・環境教育／ふるさとを学ぶ石川学／地元企業と連携したキャリア教育／地域課題解決を目指すフィールド教育 など
    - ・対面授業・実習の充実＝**まちなかキャンパス整備**
    - ・ICT教育の導入・強化＝**テレビ会議システム**による遠隔地授業・**LMS**によるeラーニング

## ②「いしかわe教育支援センター」設立

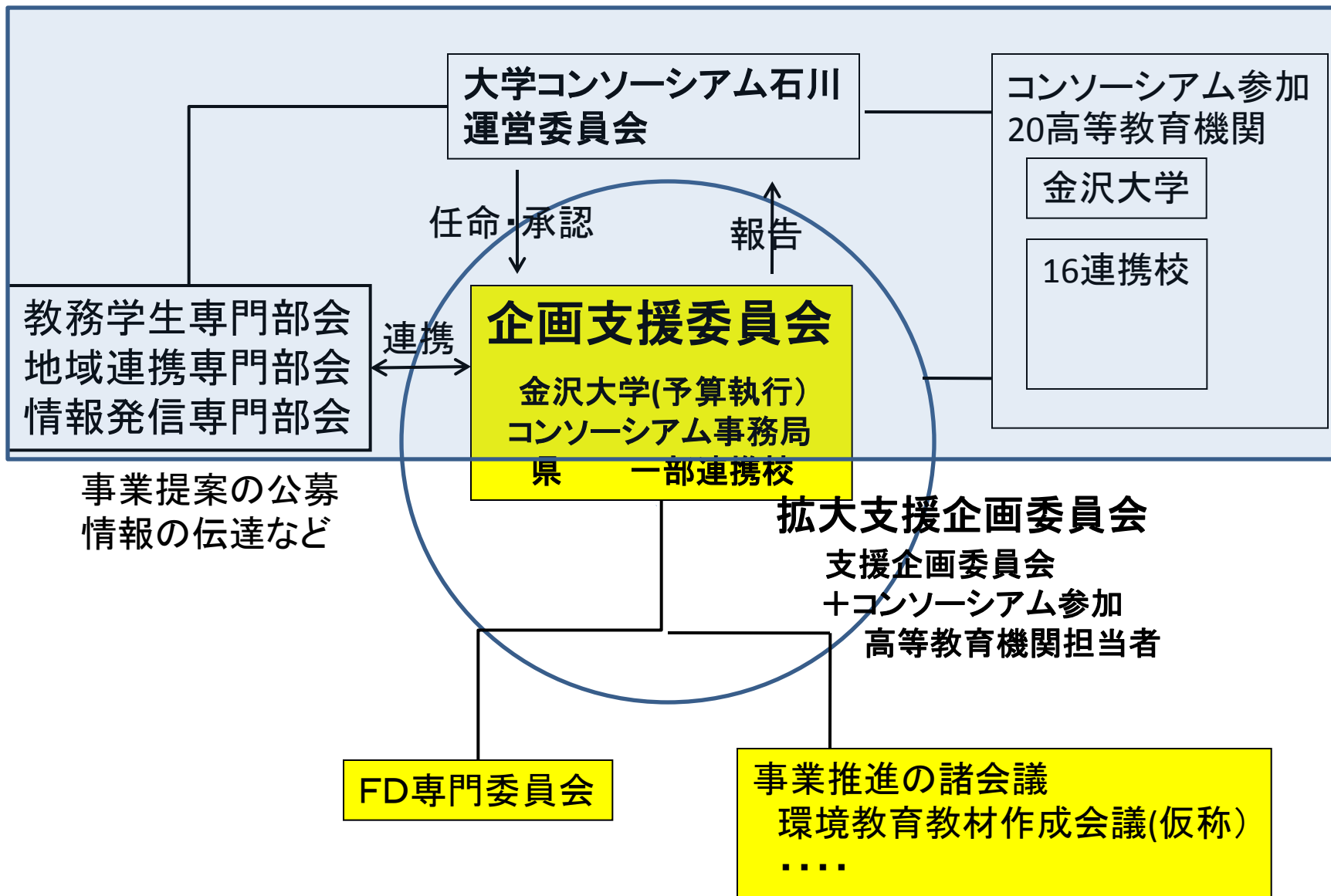
- ・全県的な教育・教育者支援、学習者の学び方等についての支援／情報化支援
- ・共同のFD/SD体制の構築（FD専門委員会）
- ・ICT教育管理システムの構築と共同化
- ・教育者人材データベース＝非常勤・退職教員・ODなどの情報の共有化（講師団構築の第一歩）

## ③「大学コンソーシアム石川ポータルサイト」の開設（LMS＋宣伝戦略）

## ④「共通評価機構」の設置（戦略GPの自己評価→加盟高等教育機関の外部評価へ成長）

## 本事業の中心は①と②

大学側からすると、共同利用によるメリットを求めて  
（特に小規模大学にとってメリットのある方向性）



# 戦略GPの具体的事業例1

ー「シティカレッジ」の質的強化に向けてー

平成20年度のインフラ整備

→ 平成21年度4月テレビ会議システムの導入による  
遠隔地授業の試験的实施(前期2科目)



**モデル授業「(シティカレッジ版)大学・社会生活論」  
(土3・4限)の開講**

質的強化のための各種事業のスタートという位置づけ

①遠隔地授業の方法開発(石川県立大と結ぶ、受講者14名)

ブレンデッドeラーニングとのコラボ

教材配信／パソコン実習／トラブル対応

## ②UCI向けブレンデッドeラーニングの方法開発

対面授業とeラーニング教材の視聴の組み合わせ＝金大「大学・社会生活論」方式の展開

ただし、UCIポータルの開発は4月稼働に間に合わず  
→ 金沢大学のアカンサスポータルで代用（UCIポータルはアカンサスポータルを見本に開発）

金大の「大学・社会生活論」で使用したeラーニング教材をシティカレッジ用に一部を部分改編（現時点でナレーション付き教材11本＝総時間数約5時間半 ほか）

⇒ ①②は授業終了後に総括をし、**FDを実施して来年度の本格実施につなげる**

eラーニング教材の内容＝学習支援・生活支援教材  
⇒ 共有教材の開発へ

### ③学生の学習及び生活支援の共有教材開発へ

金沢大学共通教育における大学・社会生活論(1年前期・1単位必修)の実績を背景

ブレンデッドeラーニング授業で使う教材を自前作成(金大FD・ICT教育支援室)

eラーニング教材は手を入れれば各大学のガイダンス・学生指導等で使用可能(現在、各大学の担当者に教材を見てもらっている → 各大学バージョンも作成可)

⇒ 地域で使える教材への発展も可能

テキストも共通バージョンの作成可能(一部は「シティカレッジ版大学・社会生活論」用に作成済み)

⇒留学生の教育・生活指導用にテキストの多言語化を進行中

ESD・環境教育教材の作成も、大学・社会生活論で使った教材の検討からスタートしている

# 戦略GPの具体的事業例2

## ー「シティカレッジ」の質的強化に向けてー

### 地域課題研究ゼミナール(連携枠)

- ・地域課題の解決を目指すフィールド教育の強化＝従来の地域課題研究ゼミナール支援事業を大型化
- ・報告書だけでなく、地域活性化・コンソーシアム活性化につながる教材等の作成を課している
- ・応募提案型－9件応募→3件採択(活動中)

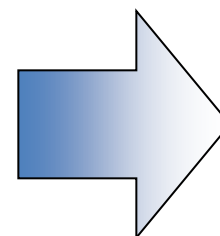
「持続可能社会を奥能登・珠洲のキリコ祭りで学び体験するツーリズムの企画と実施」

「交通環境の変化による白山市内の観光動向調査と観光誘客のための二次交通に関する調査研究」

「地域環境を活かした高齢化集落の活性化策の検討」

## •金沢大学のノウハウ

- 1.遠隔地授業
- 2.ブレンデッドeラーニング
- 3.初年次教育
- 4.ポータルサイトの運用
- 5.FDー大学教育開発・支援  
センターに蓄積したもの  
(障がい学生支援、クリッカーなど)



全体的な底上げ



- ## •他大学のノウハウ／他大学で 改良されたノウハウの引き出し

# まとめ

## •コンソーシアムにおける大学の役割

1. 地域ニーズを踏まえた教育プログラム開発・提供  
(地域課題研究ゼミ、地域が求める教材の開発、連携型地域カリキュラム開発事業など)
2. 地域活性化プロジェクトの実践 (まちなかキャンパス構想の実現へ向けて＝まちなかキャンパス整備、フィールドワーク支援、文化施設利用支援など)
3. 地域活性化政策の立案 (地域課題研究ゼミなど)

## •コンソーシアムにおける自治体への期待

1. 地域活性化政策・戦略における大学の位置づけをより明確に
2. 地域内の連携のコーディネート
3. コンソーシアム活動場所の提供—単なる箱ではなく、使い方を念頭に入れた施設を(まちなかキャンパス整備を通してもっと意見交換を)